



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第124号

2014.5.15

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。

一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」の名前をつかっています。

も く じ

お知らせ

- ー スタッフ紹介
- ー 活動報告について
- ー NPO 法人 西中国山地自然史研究会
認定記念シンポジウムについて

活動報告

- ー 山焼き後の雲月山植物観察会
- ー カスミサンショウウオの産卵調査

観察会案内

- ー 龍頭山の野鳥観察会
- ー モリアオガエル観察会
- ー 霧ヶ谷湿原の植生調査（夏）
- ー 霧ヶ谷湿原 夏のいきもの観察会

お し ら せ

●スタッフ紹介

2014年度の高原の自然館のスタッフを紹介します。自然に関する疑問や質問など、お気軽にお声おかけください。

学芸員：白川勝信（北広島町教育委員会）
受付事務：河野弥生・有光真教
（NPO 法人 西中国山地自然史研究会）
せどやま事業担当：曾根田利江
（NPO 法人 西中国山地自然史研究会）

ごあいさつ：4月からせどやま部門でお仕事させていただいています。山に関わる仕事ができ、とても楽しんでいます。よろしくお願いします。（そねだとしえ）

●活動報告について

4月25日に行われた「春の溪畔林の植物観察会」の活動報告は、都合により次号にて報告いたします。

●認定記念シンポジウム「未来に残したい、西中国山地の自然」のご案内

シンポジウム：『未来に残したい、西中国山地の自然』
内容：各分野の専門家による講演
パネルディスカッション「西中国山地で人と自然の新しい関係を探る」

日時：2014年5月24日（土）14:00～17:00

場所：広島市 西区民文化センター スタジオ

入場：無料 定員：150名

お問い合わせ：高原の自然館

※詳細は西中国山地自然史研究会のホームページをご覧ください。

URL:<http://npo.shizenkan.info/?p=3096>

観 察 会 報 告

●山焼き後の雲月山の観察会

開催日時：2014年4月26日（土）9:30

講師：大竹邦暁・佐久間智子

日光を柔らかく遮る薄曇りの中、山焼き後の雲月山植物観察会が行われました。今回の講師は、植物の専門家である大竹先生と佐久間先生です。

芸北文化ホールに12名の参加者が集合し、雲月山について、事前学習を行いました。大竹先生から、雲月山の成り立ちや地質、草原に生息する動物達について解説していただき、ビデオで、先日行われた山焼きの様子を視聴しました。佐久間先生から、雲月山と人との関わりや、近隣の草原と雲月山の植生の違いについて話していただきました。普段はなかなか聞くことのできないお話に、参加者はメモをとりながら熱心に聞き入っていました。

車で現地に移動後、登山道入口から山焼きの名残が残る雲月山を登ります。入口から尾根までの急斜面では、オオタチツボスミレやセンボンヤリなどが参加者を迎えてくれました。

尾根を歩いていると、雲月山の山腹に水路の跡が見られました。かなな流しに使われた水路の跡で、山の反対側まで続いていると、大竹先生が解説されました。かなな流しとは砂鉄を採る為の方法のことで、雲月山では、明治時代までたたら製鉄が行われていたそうです。

山頂で昼食を食べた後、分岐点まで引き返し、山腹にある道を進みます。黒く染まった山肌では、コイカリソウや、ショウジョウバカマなどが花を咲かせていました。

途中、周辺とは植生が違う場所があったので、そこへ向かいました。ヒメスイバやヒメオドリコソウ、エゾノギシギシなど、本来、雲月山では見られなかった外来植物が群生していました。雲月山で放牧が行われていた時、牛が集まって休憩していた場所であり、体内に残っていた種が、糞と共に出てきて発芽したものだそうです。牛を放牧し草を食べてもらうことは、草原の維持の点ではメリットとなることなど、草原管理の難しさを佐久間先生が話されました。

春の訪れを楽しみながら、山焼きの継続の大切さなどを学び、心地よい疲れとともに雲月山を後にしました。（ありみつますかず）



大竹先生と佐久間先生から、雲月山について解説いただいた。



雲月山の登山道入口。先日の山焼きの名残が残る。



登山道入口付近に咲いていたセンボンヤリ。



黒い山肌を背にして、コイカリソウが咲き誇っていた。



登頂記念に集合写真を撮影。



山腹に残る水路の跡を見ながら、かなな流しについて話される大竹先生。

【みなさんの印象に残った物】

「植物の芽吹きの手早さ」「思った以上に草花があつて良かったです」「風の強さ」「頂上付近の木の枝が一方にのみ向いていたこと」「ショウジョウスゲを詳しく観察できて、オスメスのなりたちが興味深かった」「山焼き後の花が多く見れたこと！」「山焼き後の芽吹きが自然を感じられて、美しい花を想像でき良かったことでした」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「雲月山の歴史から、花の名前までよくわかり楽しかったです」「初めて雲月山を訪ねてみて、また、四季の山を見に来ます」「広大な草原にただただ圧倒されました」「今年はできるだけ参加したいのでよろしくお願いします」「ショウジョウスゲ、ヤマヤナギを覚えることができ、ガイドの時の参考になる」「雲月山の珍しい景色が見られたこと」



佐久間先生から、キジムシロとミツバツチグリの見分け方について教わった。

観 察 会 報 告

●カスミサンショウウオの産卵調査

開催日時：2014年4月29日（火・祝）9:30

講師：内藤順一

今年も霧ヶ谷湿原において、カスミサンショウウオの産卵調査が行われました。かつて湿原であった場所が牧場造成工事によって土地が乾燥し、その後八幡湿原自然再生事業によって導水路等が設置され、湿原が再生されつつあるのが現在の霧ヶ谷湿原です。

去年の調査では、木道 No.75 近くに産卵が確認され、同場所で雄の成体も見つけることができました。今年はどんな調査結果になるのでしょうか？期待しながら調査が開始されました。

まずは高原の自然館の展示コーナーで、講師の内藤先生から、サンショウウオの種類や生態について解説をしていただきました。今回の調査はカスミサンショウウオを中心に行います。カスミサンショウウオの幼生は止水域に生息し、親は通常、湿地周辺の山林に生活するが、この時期になると産卵のため湿原や湿地にやってくるそうです。霧ヶ谷湿原も湿地化が進み、産卵場所が増えてきたようです。どのくらい産卵箇所が増えたのか、班に分かれてしっかり確認するのが今日の作業です。

館内でのレクチャーを終えたあと、4つの班にわけられました。初めての参加者にもわかりやすく、水際での調査方法を教えていただき、いざ開始！4月でも水温は8℃と低く、湿原の水に手をつけるとひんやりとします。

内藤先生からのアドバイスがあったように、マアザミやイヌツゲがあるところを探します。初めはぬかるみやノイバラに阻まれていた参加者も、徐々に調査の方法が身に付きはじめ、あちこちで「おったー。あつたー。」という声が聞こえ始めます。私達の班は、3カ所5卵塊を見つけました。尾芽胚後期の状態の卵がほとんどでしたが、1カ所でオスの成体も見つけることができました。その他、ヤマアカガエルの卵塊やシュレーゲルアオガエル・タゴガエルなどが見つかりました。

内藤先生によると、初期は周辺に生息していた個体が、ここ2～3年、霧ヶ谷湿原の内側に侵入してカスミサンショウウオの産卵が確認され、湿原化が証明できる大きな足がかりに

なっているそうです。本年度は木道より内側に侵入して産卵しているのも確認されました。この調査では専門家と一般の参加者がともに調査をすることで、広範囲を調査することができ、カスミサンショウウオを始め、いきものの生態や生息状況が確認できることで、より多くの方に生物多様性の重要性を感じていただける場になっていると思います。

各地で湿原の面積が減少する中、少しでも生き物やそれらを取りまく環境に関心を持ち、保全の必要性を知って頂けたらと思います。

この日限りとはいえ、湿地の状況を見ながら、体を使ってカスミサンショウウオやその他のいきものの調査を楽しくした時間となりました。

来年、カスミサンショウウオがどこまで侵入してくるか、本当に楽しみです。(このやよい)



4 班に分かれて探索開始。



歩道の下でヤマアカガエルの卵塊を見つけた。



再生した湿地. ここでも、卵塊や親が見つかった.



手に取って、よく観察.



木道の上で、各班からの報告をし合った. ヤマアカガエルの卵塊は全ての班で、カスミサンショウウオの卵塊は3つの班で見つかった.

【みなさんの印象に残った物】

「とも食いをする事」「霧ヶ谷湿原で卵塊が見られた事」「今まで見つかっていなかった場所で卵と成体が見つかったこと」「カスミの高地移行型が確認できたこと」「イバラが痛い」「カスミサンショウウオをさわったこと (2)」「カスミの卵塊と成体発見 (4)」「カスミサンショウウオ、アカハライモリ」「昨年よりもアカガエルの卵が少なかったこと」

【参加したみなさんの感想 (抜粋)】

「また参加したいです」「とても勉強になりました」「卵塊数が少なかったので、子どもにあまり見せることができなかったのが残念」「2年続けて参加して、再生が進んでいることが感じられました. 継続調査の意義がよくわかりました」「歩くのが大変だったけど、すごく楽しかったです」「卵塊が出てきて良かった」「新しい場所で卵が見つかって感動しました」「自分が卵も成体も見つけれなくてくやしかった」「普段入れない湿地に入れてとてもよかった」「とても楽しかったです」「自分で見つけれからうれしい」「すごく楽しかった. またやってみたい」「卵が発見できなかったのは残念でしたが、他の生きものもたくさん見られて良かったです」



カスミサンショウウオ、ヤマアカガエル、タゴガエル、シュレーゲルアオガエル、オオコオイムシ、イモリなどが見つかった.

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

●龍頭山の野鳥観察会

開催日時：2014年6月7日（土）6:00
集合場所：道の駅 豊平どんぐり村
講師：上野吉雄
準備：基本セット、双眼鏡、あればフィールド
スコープ
定員数：30名
参加費：一般=300円、賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

豊平地区にある龍頭山で野鳥観察を行います。早朝の山や麓の溜め池をゆっくりと歩きながら、カラ類やメジロ、イカルやクロツグミなどの鳴き声や姿を観察しましょう。アカショウビンやカワセミなどの姿も見られるかもしれません。

●モリアオガエルの観察会

開催日時：2014年6月15日（日）9:30
集合場所：原東生活改善センター
講師：内藤順一
準備：基本セット、長ぐつ
定員数：30名
参加費：無料
※今回はSAVEJAPANの支援を受け実施します

北広島町では、最大の生息地である上石地区の農業用溜め池で、モリアオガエルを観察します。普段は姿を見ることが難しいモリアオガエルですが、産卵の時期になると、溜め池に集まった姿を目の前で見ることができます。産卵中の個体も確認できるかもしれません。雨具や長靴をご用意ください。

●霧ヶ谷湿原の植生調査（夏）

開催日時：2014年6月22日（日）9:30
集合場所：高原の自然館
講師：大竹邦暁・佐久間智子・白川勝信
和田秀次
準備：作業セット
定員数：30名
参加費：無料

毎年、夏と秋に行っている植生調査です。1m×1mの中に、どんな植物が、どの程度生息しているかを、講師の先生と一緒に、調査します。計測係、記入係などを分担して行いますので、初心者の方でも気軽に参加できます。霧ヶ谷湿原の植物を、いつもとは変わった視点で見てください。

●霧ヶ谷湿原 夏のいきもの観察会

開催日時：2014年7月6日（日）9:30
集合場所：高原の自然館
講師：岩見潤治・大竹邦暁・松田賢・和田秀次
準備：基本セット、虫かご
定員数：30名
参加費：一般=300円、賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

夏の霧ヶ谷湿原を歩きながら、いきもの達を観察しましょう。ハンカイソウやオカトラノオ、ヒメシジミやヒロシマサナエなど、花の名前の由来や、昆虫と植物の関わりなどについて、専門の先生から解説いただきます。昆虫を観察するためのかごをご用意ください。

4月25日より、高原の自然館がオープンしました。大型連休の終わりまで咲いていたコブシやサクラが散り、芽生えの季節となりました。麓から山々を見上げると、新緑が日光を反射して白く輝いているように見えます。また、「アカショウビンのさえずりを聞いたよ!」との話もちろほらと聞き、山に登りたい気持ちがむくむくと湧いてきています。
(ありみつ)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしています)

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info